

父の日



ヒマワリ'ムーランルージュ'

6月の第3日曜日は父の日です。父親を尊敬し、称え、感謝を表す日とされています。

父の日の歴史

アメリカ合衆国で母の日が制定されたのは1908年のことでした。それを知ったアメリカ・ワシントン州のジョン・ブルース・ドット夫人が、翌1909年に、父の日もあるべきだと考え、「母の日のように父に感謝する日」と牧師協会へ嘆願したのがはじまりです。

ドット夫人が幼い頃、彼女の父親は北軍の軍人でした。1861年4月12日南北戦争が始まり、アメリカの悲劇の時代が始まりました。ドット夫人のお母さんは、お父さんが北軍に召されている間、女手一つで働きながら一家を支えてきました。しかし1865年、南北戦争が終わった後、父親の復員後、間もなく母親は過労のため亡くなりました。そこから父親の苦闘が始まったのです。残された子供たちは、男の子5人と女の子が1人。父親は再婚もせず、生涯独身で働き通し、6人の子供たちを男手一つで育てました。しかし父親も子供たちが皆成人した後、亡くなり

ました。その6人兄弟の末っ子の女の子が「父の日」を申請したドット夫人です。

ドット夫人が父の日の制定を牧師協会に嘆願してから7年後、1916年に『父の日』が認知されるようになりました。アメリカ合衆国第28代大統領ウイルソンのときでした。1926年には、「National Father's Day Committee」がニューヨークで組織され、1972年にはアメリカでは国民の祝日となりました。日本では1950年代ごろから知られるようになったと言われます。ちなみに父の日が6月なのは、ドット夫人の父親の誕生月6月に父の日礼拝をしてもらったことがきっかけと言われています。



バラ

父の日の花

母の日の花がカーネーションなのに対し、父の日の花はバラ。ドット夫人が、父の日に父親の墓前に白いバラを供えたからとされています。現在は父親が健在の場合は赤いバラの花を、亡くなられている場合は白いバラの花を贈るとされているそうです。

父の日のカラー

父の日のカラーは黄色とされ、これは「日本ファザーズ・デイ委員会」が広めたものだそうです。アメリカで開催されているFather's Day Campaignの存在を知り、1981年に設立された社団法人日本メンズファッション協会が母体となった委員会です。翌年1982年に、第1回『父の日黄色いリボンキャンペーン』を開催し、これが広まりました。

イギリスでは古来、「黄色」は身を守るための色とされていました。開拓時代にそれがアメリカに渡り、「愛する人の無事を願うもの」として黄色のリボンを身につけるようになりました。他にも黄色には『うれしさ』『楽しさ』『暖かさ』『幸せ』『富貴』『希望』『向上』などを表し、頼りがいのある父親を想像させられます。

このことから、父の日にはひまわりなど黄色の花が父の日の花とされることもあります。そしてこの「黄色」と「バラの花」が結びつき、黄色のバラの花が贈られることも多いようです。



ヒマワリ